

自 己 評 価 表

 今治東中等教育学校
 学校番号 (45)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）			カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）			
○自分の個性（好きなこと、得意なこと、優れていること）を知り、それを伸ばそうとする姿勢を育てます。 ○グローバル社会を生きるために必要な人権感覚を持ち、自分と他の人をもとに認め、共により良い社会を築こうとする意欲を育てます。 ○持続可能な社会づくりに貢献するために必要な学力や教養、行動力や創造性を身に付けます。			○「ヒューマニティーズコース（文科系）」「サイエンスコース（理科系）」に分かれて、卒業後のビジョンの実現を図ります。また、多くの選択科目を設けて、スポーツや芸術など生徒一人一人の得意な分野を伸ばします。 ○「総合的な探究の時間」などの専門的で継続的なプログラムによって個性を伸ばします。 ○大学や官公庁、企業、NPO等との提携事業によって、専門的で体験的な学習をします。そして身に付けた知識を行動につなげる力を養います。 ○身に付けた知識や経験を持続可能な社会づくりに生かすことができる行動力や創造性を培うために、各種のコンテスト、コンクールへの参加、出品を積極的に行います。 ○幅広い年齢層の生徒がともに活動する学校行事や部活動を通して、協調性を養い自分と他の人をもとに認め、共により良い社会を築こうとする意欲を培います。			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
グラデュエーション	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	C	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、58%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、30%が「どちらとも言えない」、10%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	学習時間の増加、探究学習の指導法の改善、地域連携の促進などにより、グラデュエーション・ポリシーの「個性を伸ばさせる姿勢の育成」「より良い社会を築こうとする意欲の育成」「学力や教養、行動力や創造性の定着」を促す。	
	確かな学力を育てる教育の推進	学習習慣の確立と基礎学力の定着	クラウドサービスを活用して自学自習の習慣化を図るといったICTの長所を生かした工夫等により、基礎期(1・2年)90分以上、充実期(3・4年)120分以上、発展期(5・6年)180分以上の学習時間確保者60%以上を目指す。 A：60%以上 B：59%～55% C：54%～50% D：49%～45% E：45%未満 分かる授業を心掛け、週末課題を工夫することにより、全国学力・学習状況調査（3年生）での正答率70%以上を目指す。 A：70%以上 B：69%～65% C：64%～60% D：59%～50% E：50%未満	B	学習時間確保のため、今年度もスタディサプリを取り入れてみた。到達度テスト後に課題配信を行い、学習習慣の定着を図った。若干ではあるが学習時間の確保へとつながっている。教員の活用方法の講習会を開き、教科での活用生かしている。動画の内容も非常に良い。	後期生3学年でのClassiの学習トレーニングの活用とスタディサプリの動画や到達度テストにおける課題配信への取組をそれぞれ生徒に意識させる。継続的に教員の活用方法の講習会を開き、生徒が十分利用できるようにしていきたい。
進路指導の充実と進路目標の実現		過去の進路情報を十分に活用し、進学、就職ともに進路実現率100%を目指す。 A：100% B：99%～97% C：96%～95% D：94%～93% E：93%未満 早期から個別指導を充実させ、国公立大学合格者数25名以上を目指す。 A：25人以上 B：24人～20人 C：19人～15人 D：14人～10人 E：9人以下 朝読書を有効に活用し、図書館の貸出冊数を増やし、年間読書冊数、一人平均10冊以上を目指す。 A：10冊以上 B：9冊～8冊 C：7冊～6冊 D：5冊～4冊 E：3冊以下	E	後期生、各学年のTeamsに來校した大学・短大・専門学校の情報をPDF化し、週1回以上掲載するようにした。年内進路決定者は70%と一般選抜受験者の増加に伴って、昨年度より減少した。現時点では89.4%と昨年度並みとなった。 総合・推薦を希望する生徒への個別指導は、部活動との調整が必要で、早期から始めたが、時間の確保が十分でなかった。国公立大学合格者7名と、昨年より減少した。※2月27日現在	各学年のTeamsに、來校した大学・短大・専門学校の情報をPDF化し、週1回以上掲載することを継続する。次年度も継続して企業情報をHandy進路指導室でデジタル化し、生徒の利用頻度を上げ、進路実現に生かしていきたい。	
部活動の充実と豊かな心の育成		県高文祭に出場する生徒45名以上を目指す。 A：45人以上 B：44人～40人 C：39人～35人 D：34人～30人 E：29人以下 四国選手権に出場する生徒後期課程7部門以上、県総体に出席する生徒前期課程5部門以上を目指す。 A：後期7部門以上 前期5部門以上 B：前後期合計 目標-2部門まで C：前後期合計 目標-4部門まで D：前後期合計 目標-6部門まで E：前後期合計 目標-7部門以下	A	県高文祭にエントリーした生徒数は、53人と目標を上回った。ただし、全国総文祭に推薦される生徒・団体は今年度いなかった。 前期四国（ハンドボール・サッカー・ソフトテニス女子個人）後期四国（ハンドボール・サッカー・なぎなた団体、演技、個人・アーチリー男子団体、男女個人・陸上競技・水泳・少林寺拳法）前期県総体8部門	文化部の活動も、運動部同様活発に行われている状況を継続させるとともに、全国につながるような研修や経験を積ませたい。 中等教育学校の特性を生かして、今後もより上位の大会を目指す。特に前期の部活動で今年度目覚ましい結果を収めている部活動が増えてきており、以前よりレベルの高い部活動とともに、高いレベルでの試合に参加することが多くなった。次年度も継続して、高みを目指す部活動に各部門もしていきたい。	
豊かな人間性を育む教育の推進		特別活動の充実と連帯感・自己有用感の育成	運動会・青藍祭（文化祭）など、学校行事に積極的に参加し、楽しめる生徒100%を目指す。 A：100% B：99%～90% C：89%～80% D：79%～75% E：75%未満	A	生徒対象の学校評価アンケートの結果では、前期生は運動会98%、文化祭99%、後期生は運動会93%、文化祭91%の結果であった。	後期生に比べ前期生の方が評価の結果が高くなっている。学校行事の主体となる後期生の取組をアンケート結果を通じて見直していきたい。
		基本的生活習慣の確立	自身による健康管理とともに、学校生活への目的意識の向上を図り、年間30日以上欠席の長期欠席者の改善を目指す。また、生活習慣の乱れによる遅刻などをなくしていく。	D	2学期以降、インフルエンザや風邪の流行に加え、欠席者や遅刻者の増加が見られた。体調不良や些細な理由で欠席する生徒も一定数おり、全体の皆勤率は例年同様、低い水準にとどまっている。	各クラス、学年において、早速早起きをはじめとする基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続的に、生徒一人一人が心身の健康を維持・増進できるよう努めていく。
	望ましい集団作りの推進	いじめの早期発見・早期解決を図り、いじめ問題未解決ゼロを目指す。	B	アンケートから1・2学期に20件のいじめ事案が認知された。学級ホームルーム担任、学級主任などの早期対応により解決しているものが大半である。家庭へ随時丁寧な説明を行い、被害生徒やその保護者に寄り添いながら、解決に向けた対応を進めている。また、認知できていない事案も起きている可能性も否定せず、日々生徒への声掛けなど積極的に行っていきたい。	いじめの早期発見・早期対応及び組織的対応を次年度も行う。そのために、学習活動のみならず、学校全体の教育活動において、日々の生徒観察を行い、声を上げていく生徒等への声掛けも積極的に、誰もが安心して楽しく学校生活が送れるように努めていきたいと考えている。	
グローバル社会で輝ける人間育成の推進	地域貢献できる人材の育成	各種英語検定に積極的に取り組み、実用英語検定等において、前期課程ではC E F R A 1以上30名、後期課程ではC E F R B 1以上20名を目指す。 A：前期30名以上 後期20名以上 B：前後期合計 目標 -5名まで C：前後期合計 目標 -15名まで D：前後期合計 目標 -20名まで E：前後期合計 目標 -21名以下 漢字検定に積極的に取り組み、漢字検定合格者数を前期課程では3級で受験者の80%以上、後期課程では2級で受験者の70%以上を目指す。 A：前期80%以上 後期70%以上 B：前後期平均 目標 -5%まで C：前後期平均 目標 -10%まで D：前後期平均 目標 -15%まで E：前後期平均 目標 -15%未満	D	実用英語技能検定3級は15名、準2級は10名、2級は3名が合格した。現在、第3回の1次試験に3級は2名、準2級は6名、2級は6名が合格しており2次合格を目指している。 3級を受験した生徒（前期課程）の合格率は、71%、2級を受験した生徒（後期課程）の合格率は33%だった。前期課程の3級の合格率は昨年度より上昇している。後期課程の2級の合格率（通年）は低いが、第2回の合格率は75%だった。	受験者数が昨年度より若干名増えているが、検定に対する意欲、関心は依然として低い状況である。今後は、進路実現に向けて資格取得が大切であるとともに、基礎学力の定着を図るためにも検定に向けた学習が必要であることを生徒に伝えながら、英検取得者の増加を図っていききたい。	
	業務改善	適切な勤務時間の奨励	行事・会議等の精選、業務の効率化、過重労働の防止など、働き方改革を進めます。	C	教職員対象の学校評価で、働き方改革に資する取組の項目で前年度より3%評価が下がった。	働き方改革＝時間短縮と限定的に捉えるのではなく、教職員の働きがいやより高められるよう対話を進めながら働き方改革を進めていきたい。
業務改善	職場環境の整備	衛生委員会や健康相談、管理職面談等を通じ、教職員の疲労や心理的負担を把握し、軽減を図ります。	B	管理職面談などを含め、コミュニケーションの機会を増やした。また、衛生委員会において、情報共有が有効活用できている。	日頃から、話しやすく、相談しやすい環境づくりを促進していきたい。また、報道相の徹底を図り、迅速に働きかけができる体制を整えていきたい。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。